

検体採取による影響

◎広瀬 逸子¹⁾

社会医療法人峰和会 鈴鹿回生病院 臨床検査部¹⁾

【はじめに】

凝固検査は血栓傾向や出血傾向の原因を検索するうえで重要な検査である。検査値を臨床に報告する前に、その値が真値かどうかを判断する必要がありアーチファクト(測定結果が真値でなく、何らかの影響で偽高値または偽低値になる)を見抜くことはとても重要となる。

アーチファクトには検体採取から測定結果を得るまでの検体または測定試薬・機器あるいはその両方による原因が一番多く、その他非特異反応、測定妨害物質、薬剤による影響などさまざまである。

【まとめ】

今回は、昨年日本検査血液学会で発表された凝固検査用サンプル取扱い標準化に関する提言についてもふれ、アーチファクトとはどんなものがあるか、検体採取の重要性について説明する。

